

U.S. Indicators

発表日: 2024 年 10 月 11 日 (金)

米国 2 ヶ月連続でコアCPIが上振れ(9 月CPI)

～FF 先物は 11 月 FOMC での 25bp 利下げ織り込み維持も 25 年末の FF 金利水準上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

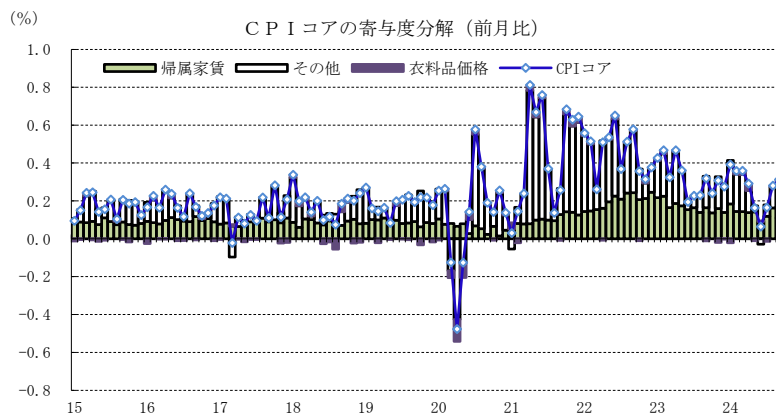
消費者物価												
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービス コア
23/09	+0.360	(+3.7)	+0.319	(+4.1)	+1.2	+0.2	+0.5	▲0.3	+0.3	+0.1	▲0.2	+0.5
23/10	+0.079	(+3.2)	+0.240	(+4.0)	▲2.1	+0.3	+0.3	+0.0	▲0.7	+0.2	▲0.0	+0.3
23/11	+0.160	(+3.1)	+0.308	(+4.0)	▲1.6	+0.2	+0.4	▲0.6	▲0.2	+0.5	▲0.2	+0.5
23/12	+0.233	(+3.4)	+0.275	(+3.9)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.0	+0.1	+0.4	▲0.1	+0.4
24/01	+0.305	(+3.1)	+0.392	(+3.9)	▲0.9	+0.4	+0.6	▲0.7	▲0.6	+0.5	▲0.3	+0.7
24/02	+0.442	(+3.2)	+0.358	(+3.8)	+2.3	+0.0	+0.4	+0.6	+1.4	▲0.0	+0.1	+0.5
24/03	+0.378	(+3.5)	+0.359	(+3.8)	+1.1	+0.1	+0.4	+0.7	+0.8	+0.5	▲0.2	+0.5
24/04	+0.313	(+3.4)	+0.292	(+3.6)	+1.1	+0.0	+0.2	+1.2	+0.7	+0.4	▲0.1	+0.4
24/05	+0.006	(+3.3)	+0.163	(+3.4)	▲2.0	+0.1	+0.3	▲0.3	▲1.1	+0.5	▲0.0	+0.2
24/06	▲0.056	(+3.0)	+0.065	(+3.3)	▲2.0	+0.2	+0.2	+0.1	▲1.3	+0.2	▲0.1	+0.1
24/07	+0.155	(+2.9)	+0.165	(+3.2)	+0.0	+0.2	+0.4	▲0.4	▲0.1	▲0.2	▲0.3	+0.3
24/08	+0.187	(+2.5)	+0.281	(+3.2)	▲0.8	+0.1	+0.3	+0.3	+0.1	▲0.1	▲0.2	+0.4
24/09	+0.180	(+2.4)	+0.312	(+3.3)	▲1.9	+0.4	+0.2	+1.1	▲0.2	+0.4	+0.2	+0.4
(注) 括弧内は前年同月比												

(注) 括弧内は前年同月比

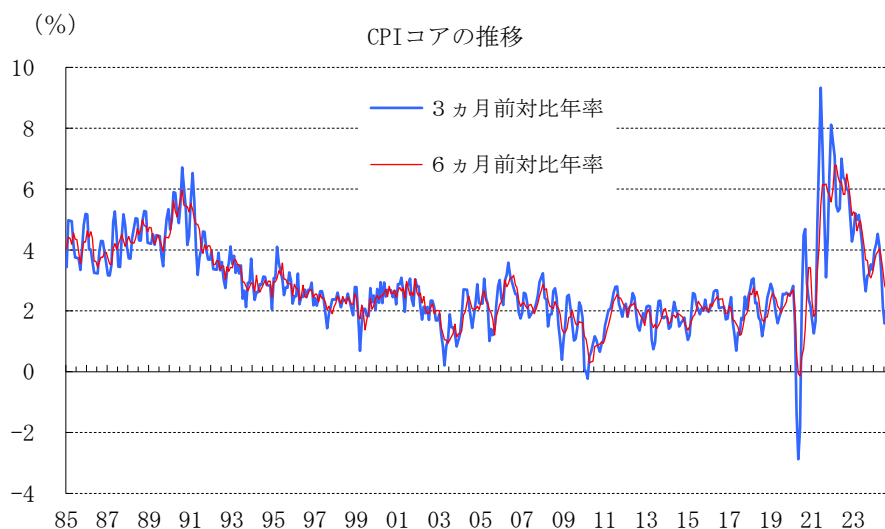
24 年 9 月の消費者物価（総合）は、前月比+0.2%（前月同+0.2%）と市場予想中央値の同+0.1%を上回った（筆者予想同+0.1%）。ガソリンの下落などによりエネルギーが前月比▲1.9%（同▲0.8%）と下落幅を拡大した一方、食品が牛肉、果物・野菜、卵等の押し上げによって前月比+0.4%（前月同+0.1%）と上昇したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価（CPI コア）が同+0.3%（同+0.3%）と市場予想中央値（同+0.2%）を 2 ヶ月連続で上回った（筆者予想同+0.2%）。

CPI コアでは、財コアが前月比+0.2%（前月同▲0.2%）と 7 カ月ぶりに上昇したほか、サービスコアが前月比+0.4%（同+0.4%）と高止まりした。財コアでは、医療用品、余暇商品、情報機器が下落幅を拡大した。一方、新車、中古車、自動車部品、アルコール飲料が上昇に転じたほか、衣料品、大学の教材、その他財が上昇した。また、家庭用耐久品・消耗品が変わらずとなった。

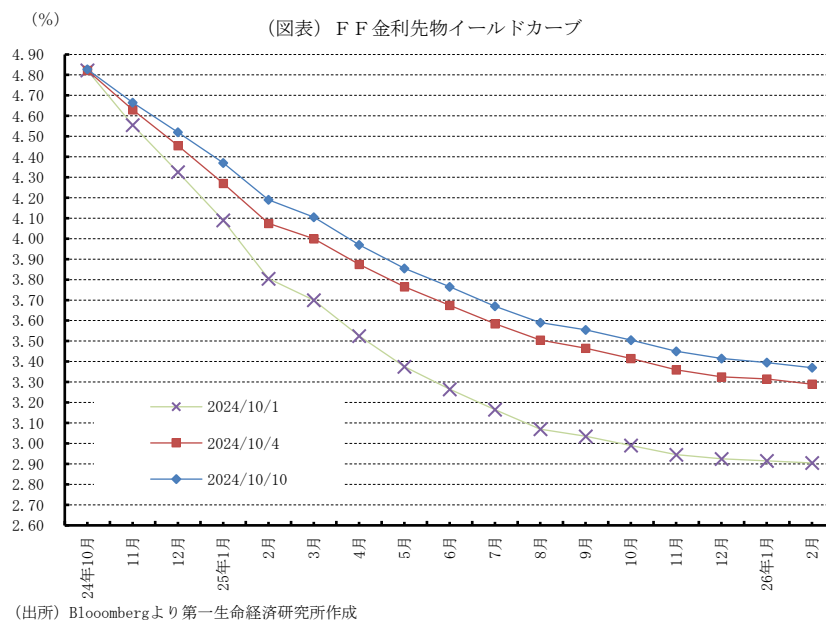
サービスコアでは、ホテル、余暇サービスが下落に転じ、インターネットサービスが下落幅を拡大した。また、賃貸料（+0.3%、前月+0.4%）、帰属家賃（+0.3%、前月+0.5%）、病院・関連サービス、航空運賃、その他個人向けサービスが低下した。一方、専門医療、レンタカーが上昇に転じたうえ、医療保険、自動車保険、自動車メンテナンス・修理、上下水道・ゴミ収集サービスが上昇した。



CPIコアの上昇モメンタムをみると、6ヵ月前対比年率で+2.6%（前月+2.7%）と依然高い伸びにとどまっているが、低下傾向を辿っている。ただし、3ヵ月前対比年率で+3.1%（前月+2.1%）と再上昇しており、短期的にインフレ圧力の再燃している。



F F金利先物が示す25年末のF Fレートの水準は、弱い内容だった9月ISM製造業景気指数が発表された10月1日に約2.9%に低下した後、良好な内容だった9月雇用統計の公表された10月4日に3.3%と上昇し、コアCPIが再上昇した9月CPI統計の公表された10月10日に3.4%まで上昇した。ただし、CPIと同時刻に公表された週間新規失業保険申請件数が予想よりも悪化したため、F F金利先物が織り込む11月FOMCでの25bpの利下げの可能性は、86%と80.3%から上昇した。



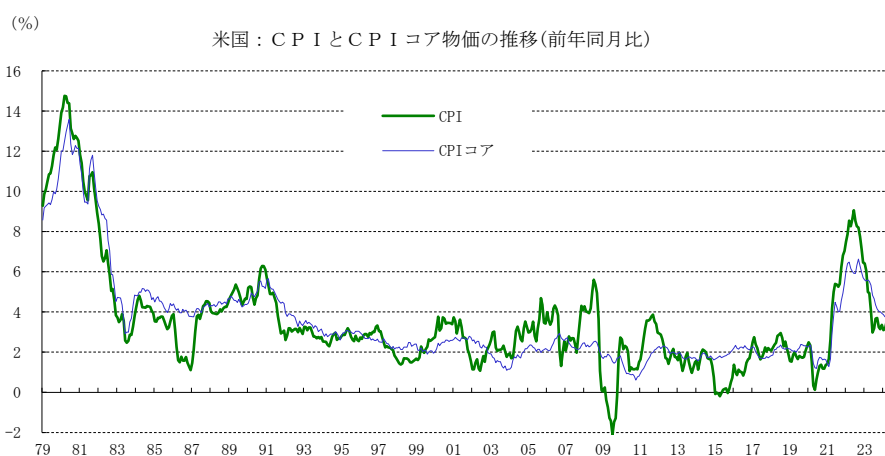
前年同月比の動きをみると、総合が+2.4%（前月+2.5%）と市場予想中央値の+2.3%（筆者予想+2.3%）を上回ったものの低下した。CPIコアが+3.3%（同+3.2%）と市場予想中央値の+3.2%（筆者予想+3.2%）を上回ったほか、食品が+2.3%（同+2.1%）と上昇した一方、エネルギー

ーが▲6.8%（同▲4.0%）と下落幅を拡大した。

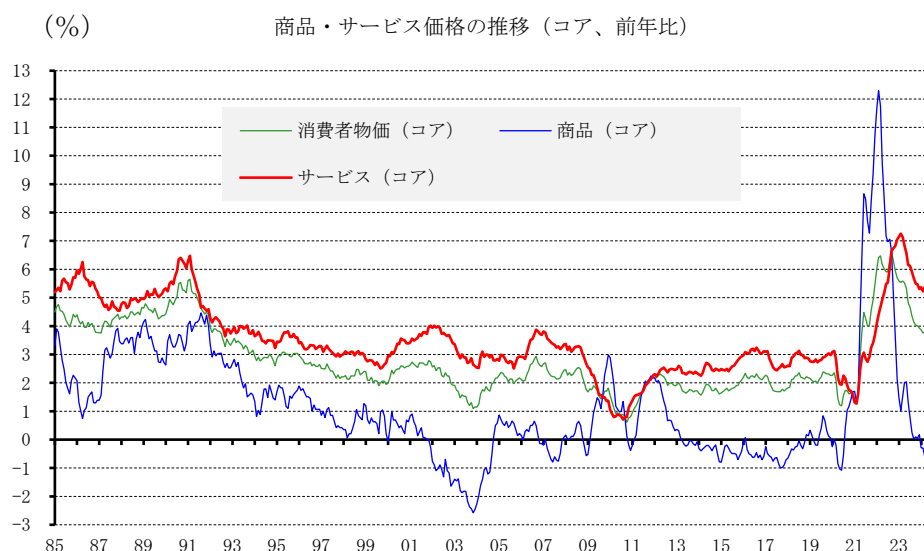
サービスコアが+4.7%（同+4.9%）と低下した一方、財コアが▲1.0%（前月▲1.9%）と下落幅を縮小した。

サービスコアでは、医療保険、航空運賃が上昇に転じたほか、専門医療サービス、教育関連サービス、個人向けケアサービスが上昇した。一方、ホテルが下落に転じたうえ、レンタカー、携帯が下落した。また、賃貸料、帰属家賃、病院・関連サービス、自動車保険が高い伸びながら低下した。サービスコアは、賃金上昇の影響を受け易い部門での上昇、住宅関連の高い上昇を背景に、前年比+4.7%と高い伸びを続けており、引き続きCPIコアの前年比での鈍い低下の主因となっている。

財コアでは、家庭用耐久品・消耗品、新車、娯楽用品、情報機器が下落したほか、医薬品など医療用品が低下した。一方、自動車部品が上昇に転じたほか、衣服が上昇し、中古車が下落幅を縮小した。

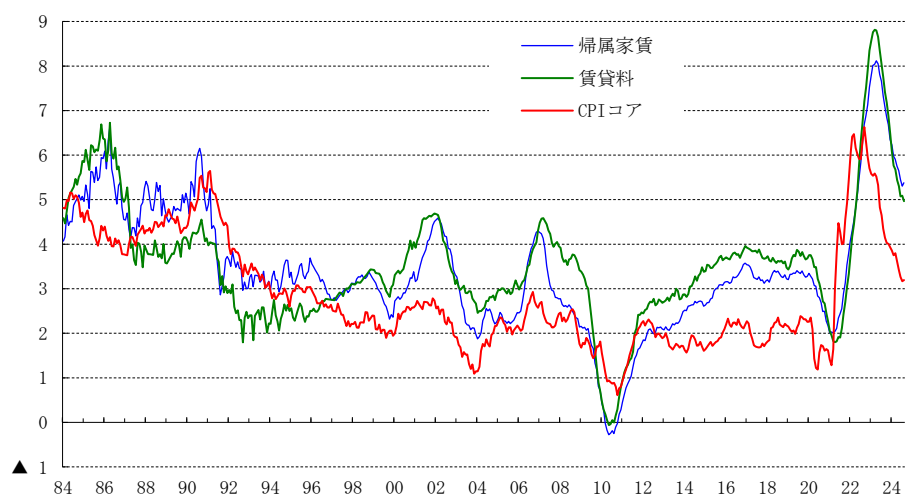


(出所) 米労働省



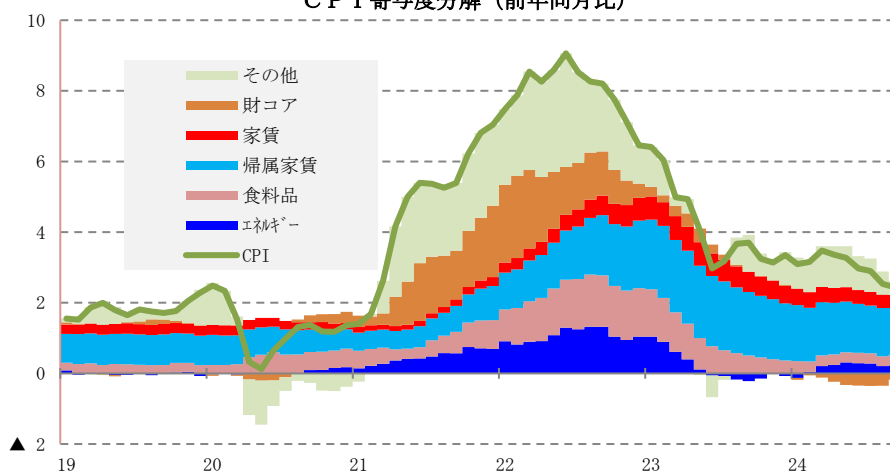
(出所) 米労働省

(%) C P I コアと帰属家賃・家賃の推移（前年同月比）



（出所）米労働省

(%) C P I 寄与度分解（前年同月比）



（出所）米労働省

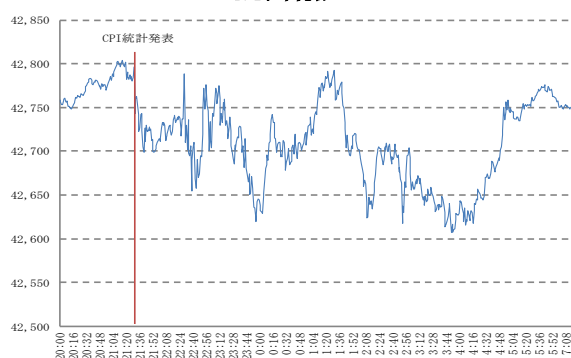
(円) CPI統計発表 ドル・円



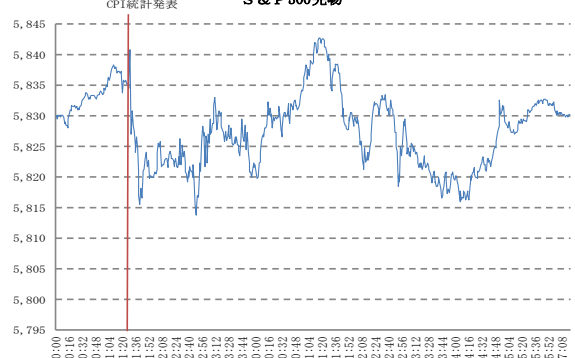
(ユーロ) CPI統計発表 ユーロ・ドル



(ドル) NYダウ先物



CPI統計発表 S & P 500先物



(%) CPI統計発表 米10年国債利回り



(%) CPI統計発表 米2年国債利回り



(ドル) CPI統計発表 原油先物



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

